

令和8年4月7日

令和8年度 大田区立大森第一中学校 学校経営方針(案)

大田区立大森第一中学校
校長 高橋 真弓

1 本校の教育目標

- きまりをよく守り、責任を果たす人になろう
- 自ら進んでよく学び、よく働く人になろう
- 心身ともに健康で、情操豊かな人になろう
- 互いに尊重し合い、思いやりのある人になろう

2 目標を達成させるための基本方針

- (1) 確かな学力を定着させ、体力の向上と道徳性の涵養を図る
- (2) 個性を伸ばし、豊かな人間性と自立心を育む
- (3) 主体的に学ぶ意欲を高め課題解決能力や自己学習力を培う
- (4) 地域社会に根ざした学校づくりを推進する
- (5) 義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を推進し社会性を高める

3 目指す学校の姿

- **生徒が来なくなる学校 ～一人一人を大切にした生活指導と学習指導を実践する～**
- (1) 生徒・保護者・地域から信頼され、よき伝統、よき校風のある学校
「上級生が下級生の手本となる」「挨拶がよくできる」
- (2) 充実した授業を通して、学力の基礎・基本が身に付けられる学校
- (3) 安全・安心で、豊かな心を育む、教育環境の整った学校
- (4) 規律・社会貢献・自主自立を育む学校
- (5) よき友人、よき教師、打ち込めるもの、感動する体験と出会える学校

4 目指す生徒の姿

- **理想の自分をイメージし、学校・地域で活躍する生徒 ～未来を切り拓き、社会に貢献する意欲を持ち、心身ともに健康で積極的に活動する～**
- (1) 他者を尊重し、思いやりがあり、社会性豊かな生徒
- (2) 明るく元気で、労働や奉仕の精神が豊かな生徒
- (3) 心身ともに健康で、学習や運動に主体的に励む生徒
- (4) 伝統を重んじ、学校生活や行事に意欲的に取り組む生徒
- (5) **地域の一員としての自覚をもつ生徒**

5 目指す教職員の姿

- **楽しく働き、自己実現に邁進する教職員 ～様々な活動を通して働きがいを得、自己研鑽に励む～**
- (1) 常に向上心を持ち、自己研鑽・授業研究に取り組み、専門性を高め合う教職員
- (2) 生徒・保護者・地域との信頼関係を構築する教職員
- (3) 共通理解・共通認識のもとに、何事にも率先して協働する教職員
- (4) 3年間を見通し、「生徒の心に寄り添う」指導をする教職員
- (5) 健康で明るく、服務規律を遵守する教職員

6 教育目標を達成させるための具体策

○ 3年間を見通した系統的な指導を推進する。

(1)学習指導:学ぶ喜びを獲得し、自ら学びに向かう意欲を育てる。

- ア 基礎的・基本的な内容の確実な定着に向けて、ICT 機器やデジタル教材等を効果的に活用し、主体的・対話的な学習を推進する。さらに、個別最適化に向けた学習内容・指導方法を工夫する。
- イ プロセスを重視した学習、及び適時のフィードバックを実施し、わかる授業・意欲の湧く授業を展開する。
- ウ 適正な評価基準の設定と説明責任・結果責任に耐えうる評価方法を実践する。
- エ 適切な指導計画に基づいた家庭学習の実施を図る。
- オ 「特別の教科 道徳」における評価方法を工夫し、自尊感情や自己肯定感を高める。
- カ 総合的な学習の時間では、エコ活動への理解促進やリサイクル活動などを推進し、SDGsへの意識を高める。
- キ 学校図書館司書の支援や協力なども得ながら、学年行事を中心に「学習新聞作り」を行う。

(2)生活指導:認め、励まし、共感し、心に寄り添った指導を推進する。

- ア 生徒理解に基づく先手(予防)の支援を行うために、「一中エールウィーク」「学校生活調査」「学級集団調査」等を効果的に活用するとともに、スクールカウンセラーとの連携等の教育相談機能の充実を図る。
- イ いじめの未然防止・早期発見・早期対応を組織的に行うために、情報共有の場を定期的に設定する。
- ウ 基本的な生活習慣を確立するために、全教育活動を通して健康教育を推進する。
- エ 避難訓練等の防災教育やセーフティ教室を通して安全教育を徹底し、危険を予測し回避する能力や他者や社会の安全に貢献できる資質を育てる。

(3)進路指導:キャリア教育の要として、生き方教育を推進する。

- ア 生徒が主体的に進路選択できるように3年間を見通した、系統的な取組を推進する。
- イ 「職場体験」や「上級学校訪問」や「高等学校の先生による出前授業」等体験的な活動を重視するとともに、事前及び事後の取組でキャリアパスポートを活用しながら自己を見つめる機会の充実を図る。
- ウ 第3学年では、3回の三者面談の実施や面接の練習等、より実践的な進路指導を展開する。

(4)特別活動:進路指導と関連を図りながら、自己理解を深め、社会性を高める教育を推進する。

- ア 「上級生が下級生の手本となる」のキャッチフレーズのもとに、互いに高めあう意識をもつとともに、学級・学年への所属意識や自己有用感を高める。
- イ 生徒会や専門委員会等の活性化を図り、学校生活の向上を目指し行動する意欲を向上させる。
- ウ ボランティア活動等を推進し、地域の一員としての自覚を深め、地域に貢献する態度を育成する。
- エ 部活動は、教員と生徒との信頼関係を構築する場と捉え、健全育成の基盤となる望ましいあり方を求め、取組の充実に努める

(5)教育環境の整備:気持ちよく、安全に生活し、安心して学習できる場を構築する。

- ア 人権やユニバーサルデザインを意識した校内環境の整備を行い、誰もが使いやすく、安心で安全な場を構築する。

- イ スクールカウンセラー、特別支援教室専門員等と連携して、個別の指導計画や個別教育支援計画を作成し、特別な支援や配慮を要する生徒へのきめ細やかな指導を推進する。
- ウ 校内別室を設置し不登校生徒への支援を実施する。登校支援員を複数配置し、生徒個々のニーズにできるだけ応えられる体制を整備する。

(6)コミュニティスクールの役割:地域との連携を一層深め、地域と学校が互いに協力をしながら双方の課題解決を図る。

- ア 学校運営協議会と一体となった学校運営を実施する。地域学校協働活動推進員との連携を深め、教育活動の充実を図る。
- イ 地域、保護者、生徒の学校評価アンケート結果を活用して、学校改善に取り組む。
- ウ 学校行事・授業参観の案内、各種たよりの発行やホームページによる広報活動を行い、教育活動の見えるかを充実させる。
- エ 行政、青少年委員、保護司、スクールソーシャルワーカー等と連携を図り「地域ネットワーク」を構築し、生徒及び家庭への支援の充実を図る。
- オ 地域に根ざした教育活動として、「稚魚放流体験」「池上自動車教習所での自転車安全教室」「清掃活動」「地域行事へのボランティア参加」等を実施する。

(7)その他

- ア 「小中一貫教育の日」を活用して小学校との連携を一層深めるとともに、児童・生徒交流の機会をもち、子ども自身が交流の良さを体感できるようにする。
- イ 教員は、丁寧な言葉遣いや生徒の模範となる行動を意識するとともに、教育公務員として法令を遵守し服務事故ゼロをめざす。
- ウ 学校徴収金等検討委員会を設置して私費の適正な予算の設定と執行を行う。また、保護者の状況を把握しながら、学校徴収金の完全徴収をめざす。